



# 関西支部報

<http://www.jackansai.com>

## 蘇る青春の記憶

重廣恒夫

4月末、10年ほど住んだ夙川から三ノ宮に引っ越ししました。今回が5度目の引っ越しですが部屋が前よりも狭くなるとあって、登山用品や本などは事前にかかなりの量を実家に送りました。それでも全部は収納できず、連休の前半と後半2回に分けて送り出した荷物の受け取りのために新居と実家を往復しました。新居は最近流行のタワーマンションで標高100m弱の部屋からは須磨浦公園からハーブ園までの山並みを望むことができます。ベランダからはさらに東へ摩耶山からガーデンテラスまでの展望が広がっています。ソファに座ると北側に60ヶ国前後の国籍を持った人たちが暮らす北野町から元町界隈までを俯瞰することができ、これからの散歩で多様な生活に触れる期待が高まります。東側の壁面はほぼ本棚で占められており、通り過ぎた青春の思い出を詰め込んでいます。

小学生から大学生までに読んだ本や「岳人」「山と溪谷」「岩と雪」などの雑誌は実家に移送していますので、今ある本は千冊ほどですがそれでも数10冊は幼いころに読んだ本を残しています。昆虫採集が山登りの始まりであったので、1958年に購入した保育社の『原色日本蝶類

図鑑』や内田老鶴圃の『新しい昆虫採集』(上・下)は背表紙がかなり傷んではいますがギフチョウやサツマシジミの新たな生息地の確認などが思い出されます。ヒマラヤ登山を目指すきっかけとなったモーリス・エルゾグの『処女峰アンナプルナ』を購入したのは1961年中学2年の時ですが、本棚には1951年11月24日にフランスで発行された初版本と1953年8月15日白水社から発行された3冊が並んでいます。この3版には六甲学院1期生で『パタゴニア氷床横断：南米大陸白い地図に挑む』を著された坂上秀太郎(2002年没)さんが、同年8月31日に神戸丸善で購入されたサインが入っています。日本山岳会のヒマラヤ登山の嚆矢となったマナスル登頂は『マナスル、1952～3』と『マナスル、1954～6』の2冊に分けて発行されていますが、後篇には今西壽雄、楢有恒、辰沼廣吉、日下田実、松田雄一、三田幸夫、村木潤次郎、千谷壮之助各氏のサインが記されています。この2冊は数年前に神田の悠久堂で買い求めたものですが、以前今西壽雄元会長の形分けとしていただいたものにはサインがありません。昔は所蔵印やサインの入っている本を古書店で見るとは少なかったのですが、ここ十数年はそんな本を

### 目次

蘇る青春の記憶	重廣恒夫	1
平成25年度関西支部総会報告	中村久住	2
欠席者の便りから		3
夏期懇談会のご案内		3
関西支部と私		3
関西支部の思い出	篠崎 仁	4
関西支部の誕生	大賀壽二	4
エベレスト街道	加藤芳樹	5
山の神事「三ツ山大祭」	須磨岡輯	6
支部山行報告		6
4000山グランプリ34	橋本圭之輔	7
ゆるやか山行	北摂・京都を歩く	19
近場でスキー	村上美代子	8
関西支部県境縦走2	廣田猛夫	9
ゆるやか山行	宗實二郎	9
北山を歩く20	岩崎しのぶ	10
雪上研修会	野口恒雄	10
五支部山スキー登山	安井康夫	11
関西支部県境縦走3	村田かおり	12
「本山寺山森林づくりの会」作業報告	秦 泰夫	13
第7回日本山岳会森づくり連絡協議会の開催	金井良碩	13
県境縦走で出遭った大きな虫癩始末記	阪下幸一	14
会務報告		14
第6回委員会議事録		15
平成25年度関西支部総会次第		16
平成24年度関西支部活動報告		16
平成25年度関西支部活動方針		17
支部山行計画	13年7月～9月	19
自然保護行事	13年7月～9月	21
新入会員・支部会友名簿		21
編集後記		22

多く見るようになりました。特に山岳古書の流通が疎になってからはその傾向が強いです。

中学校3年からは、山好きだった叔父にマニラ麻のザイル(最近ではロープという)を借りて懸垂下降の真似事をするようになりました。高校に入学してからは実家近くの右田ヶ岳や陶ヶ岳のゲレンデ通いをするようになり、徳山山岳会や峨嵋同人などの社会人の方々とザイルを組むようになりました。この頃から昆虫や鳥類の本に変わって、フランスなどで発行された訳本を読むようになり、ガストン・ビュファの好著『雪と岩』をはじめ、白水社やあかね書房刊行の本を購入しました。1966年大学に入学してすぐに岡山クライマーズクラブに入会し、ほどなく第2次RCCにも入会して夢は「ヨーロッパの三大北壁からヒマラヤへ」でしたので、RCCⅡ編著の『登攀者』や『挑戦者：65年アルプス登攀の記録』を参考にして、積雪期の穂高岳や黒部の岩壁の継続登攀に没頭するようになりました。屏風岩を登った後、北尾根を縦走してIV峰正面壁か前穂高岳東壁を登って奥穂高岳に到り、さらに西穂高岳に縦走したり、滝谷を登ったりするトレーニングを繰り返しました。念願の「ヨーロッパの三大北壁」に行く事はできませんでしたが、着の身着のままツェルトや雪洞を使用した1週間から2週間の縦走は、貧弱な着衣と重い登攀装備に苦しみ、寒さに耐え、飢えに耐える耐久力養成のトレーニングとなり、その後のヒマラヤ登山に随分と役に立ちました。この頃多く刊行された技術書も読破しましたが、1968年から1969年にかけて刊行された『現代アルピニズム講座』(全6巻・別館1)は何度も読み返した記憶があります。

1971年にオニツカ株式会社(現アシックスジャパン株式会社)に入社してから3年目にエベレスト南壁を登る登山隊に参加したのを契機に、1995年までに多くのヒマ

ラヤ登山隊に参加することになりました。それぞれに公式報告書や参加した隊員や同行記者の方々が多くの著作を残されています。1977年のK2登山隊などは、公式報告書の他に6冊の単行本が並んでいるほどです。ヒマラヤに行くようになってから技術書だけではなく、あかね書房の『ヒマラヤ名著全集』や山と溪谷社から相次いで発行された『高所登山研究』『高所医学』『ヒマラヤ研究』が愛読書となりました。ナムチャバルワ初登頂の発端もベイリイ著の『ヒマラヤ謎の河』であることは言うまでもありません。2回目となったナンダデヴィ登山隊の隊長は文化人類学者の鹿野勝彦さんだったので準備期間中にフランス隊の原書から日々の天気の様子や移り変わりなどの記録をとり、遠征時期の天候予測をすることを教えて貰いましたので、その後は山岳書だけでなく、朝日新聞が発行した朝日講座『探検と冒険』(全8巻)なども読み始めました。その中で記憶に残るのは、1978年に日本交通公社から発行された植村直己監訳『探検：エキスパートへの道』に植村さんが書かれた「はじめに」後段で“…多分にスポーツ的要素を含んでいる現代の探検において絶対必要なのは、生命の尊重であり、生きて帰ることが冒険の大前提である。いかなる学術的意義があっても、命の犠牲は意味がない。…”という言葉です。

しかし、残念なのは本棚にはこれまで山登りを一緒にした人達の遺作や遺稿集も多くあり、過ぎ去った青春には夢と希望を実現させた記憶だけでなく、対峙した山々の非情さに泣いた記憶も呼び戻してくれることです。歳をとるにしたがって山登りの質は随分と落ちてきていますが、それ以上に落ちているのが体力・技術であり、「昔取った杵柄」は無いと自覚して、これからの山登りを継続するように示唆している本棚でもあります。

## 平成25年度 関西支部総会開かれる

中村 久住

平成25年4月17日(水)18時30分から、大阪セルロイド会館会議室で開催された。

冒頭、重廣支部長から、昨年4月1日から公益社団法人として再スタートを切った。山岳会が直面している高齢化・会員減少に歯止めをかけ、財政基盤強化の為に法人運営適正化PJ・支部活性化PJ・「山の日」制定PJ・ルーム検討PJに加えて収益事業・会員サービス事業検討PJの5つのプロジェクトが始動した。また、今迄のジャック・ユースPJを発展的に解消して、従来の学生部・青年部・指導委員会を統合して「ユースクラブ」を

立ち上げ、若い会員の入会と活動を活発化するため、年間500万円の予算をたて、広報活動の強化、HPの充実、講習会や野外活動の開催などで年間100人の若い会員増をはかっている事が報告された。

最近のニュースとしては、4月10日に「山の日」制定で超党派の国会議員連盟が発足した。連盟結束には呼びかけ人として自民党の谷垣禎一議員や江藤征士郎議員など7党8人が名を連ね、今後議員連盟の参加者を100人(10日現在58人)に増やして、「山の日」制定に向けての活動を推進してゆく事が報告された。



関西支部は2015年に設立80周年を迎えるが、記念事業を行うための委員会をつくり、万端の準備を整えたいと考えている。既に「80年史」や「記念山行」などはP Jを立ち上げた。また80周年に向けた事業の一つとして1月より「関西支部県境縦走」を開始したとの説明があった。総務担当からの詳細報告、会計報告などがあり全ての議案が了承された後、平井評議員の乾杯の音頭で懇親会が始まり、和やかなひと時を過ごした。話は尽きなかったが21時過ぎ橋本会員の1本締めでお開きとなった。

## 欠席者の便りから

ご盛会を願っています。

**植西武司**

いつも欠席ばかりで申し訳ございません。ご盛会を祈念しております。

**大川哲次**

七十七才でほとんど山行はありません。唯、学生時代(徳島大学山岳部)のリーダーをしていた関係で私の卒業五十年OB会を開きました。昭和44年マッキンレー南のフォーレイカー登頂が一番の思い出です。1ドル360円、月給5万円の時代です。最近、徳島の稲井君が入会したようです。私の後輩でチュミックへ徳島岳連から出かけたことがあります。

**大島秀夫**

ハードな山行は出来なくなりました。2月に蔵王のマンモス樹氷トレッキングに行きました。5月には九重連山のミヤマキリシマを見に行きます。

**黒田守彦**

体調不良で欠席します。特に病気ではない年齢(87才)によるものでしょう。

**住吉仙也**

所用あり総会を欠席いたします。去る二月「近場のスキー」として、支部の方々に但馬ハチ高原へ起こしていただきました。日頃研鑽?の調理の腕を振ってご接待いたしました。幸い、中日には「大快晴」に恵まれました。ど

うやら、これが一番のご馳走だったようです。またの超越しをお待ちしています。

**高田 誠**

ご無沙汰申しわけございません。両親の介護も無事にやり通し、気が付けば体力もがた落ち、少し落ち着いてから自分に合った登山をと考えています。皆様方のご健康を。

**内藤正司**

東北・北海道の豪雪が報じられる中、丹後半島の低いけれども雪深い山を歩いてきましたが、今年は例年より逆に雪が少ないのに驚かされました。ご盛会を心よりお祈り申し上げます。

**平野征人**

昨年は喉頭がんにより二度、和歌山医大病院に入院、体力の衰えはげしく、二階に上がるのも気が尽く始末。もう山登りなんてできません。残念。

**三木 亮**

仕事の都合により欠席させていただきます。県境縦走、4000山と本年度も積極的に参加していきたいと思ひます。

**村田かおり**

小さな酒席における現役を退かれた名医の話です。呼吸を整える。運動をする。二足歩行は与えられた最良のもの歩きなさい。そして楽しむことと付け加えた。食物以外のもの、クスリなどは最少がよい。しかし、服用すべき薬剤はしっかり服用のこと。免疫学の権威のシンプルな話は私に山行を促すシグナルでした。

**村田悌章**

今年の総会は他の用事と重なり残念ですが欠席させていただきます。今年1月から始まりました県境縦走にはなるべく参加したいと思っております。

**山本義博**

## 夏期懇談会のご案内

恒例の夏期懇談会を下記の通り開催します。世界中で沢登りする興味深いテーマです。多数のご参加をお待ちいたします。

**日時** 8月29日(木)18時から

**会場** 大阪凌霜クラブセミナー室

(大阪駅前第一ビル 11F)

電話 06-6345-1150

**講師** 茂木完治氏(海外遡行同人代表 JAC関西支部所属)

**演題** 世界の沢を巡って

講演終了後、講師を囲み懇親会を行います。(会費5千円) 同封ハガキにて8月15日までに欠席をお知らせください。

# 関西支部と私

## 関西支部の思い出

篠崎 仁

私のJACクラブライフの原点は、関西支部にある。1981年東京から大阪に転勤、早速関西支部に入会する。初山行は、播磨・段ヶ峰倉谷廻行であった。難しい滝に出会い皆が高巻きするなか阿部和行さんだけが直登する。難儀していると滝の上でみながはやし立てる。何とということかと思っていたが、後になって阿部さんが『岩登り技術』（東京新聞出版局）を著している名クライマーであることを知った。ほどなく支部委員会に入れてもらう。委員会は、いつもどこかからウイスキーが出てきて、下戸の私までもがグラスを舐めながら議論をしていた。信託銀行勤務ということで、有無をいわず会計担当に。5月の連休返上で帳簿の整理、決算書類を作ったこともあった。

山行では、比良の奥の深谷、口の深谷をはじめ美しい沢に夢中になる。初めての山スキーで、「簡単、簡単…」の言葉に“だまされ”、氷ノ山でえらい難儀をした。毎年年末には、今西壽雄支部長のご自宅でのにぎやかで楽しい餅つき会。私も家族全員で参加し、関東ではなじみのない丸餅を一所懸命まるめた。今西さんがニコニコしながら上手に捏ね取りをしていた姿が目浮かぶ。

1985年広島に転勤。関西支部は、50周年記念行事とし

て「支部最高峰巡り」の企画を遂行中であった。当時は広島も関西支部所管で、1986年10月関西から14人が最高峰登山に来広、私の单身マンションにも数人が泊った。広島最高峰は、恐羅漢山1,346mであるが頂上直下までリフトがある状況なので、冠山1,339mに登った。広島在住会員の方々にお骨折りを頂いた。

関西支部から独立して広島支部を作ろうという機運が盛り上がり何度か準備会を開催したが、実現しないうちに東京へ転勤となった。

1989年、再び大阪に転勤、関西支部の仲間たちに歓迎していただいた。東京で自然保護委員会に在籍していたことから、関西でも自然保護委員を担当した。1992年に京都支部と共催で自然保護全国集会を滋賀県朝日の森研修所で開催した。準備段階で、京都・関西両支部が相互に何度も行き来し懇親を深めることができた。2003年東京に転勤、3回に亘る大阪勤務に別れを告げた。

2007年、はからずも千葉支部設立に携わることとなった。今西・阿部二人の名支部長には到底及ぶべくも無いが、折にふれ関西支部の委員会のことを思い起こしながら千葉支部の運営にあたってきた。感謝にたえない。

(会員番号7343 現千葉支部長)

## 関西支部の誕生

大賀壽二

大阪北区堂ビルの向かいに居を移した好日山荘のとなりにR.C.C.が空部屋を見つけ寄場にしてから賑やかになった。藤木先生のR.C.C.も10年を越えて会員の人数も多くなり有志の人たちによって関西支部設立の希望が強くなり、代表として中原さんと水野祥太郎さんが上京して小島烏水先生と会合を持ったけれども“そんなものはありません”と言われた。その後、何度か上京して話し合ううちに、大阪へ出向いて熱心な人たちと会うことになった。会場は堂ビル9階の精交舎で、中原さんのお世話であった。京都からは今西錦司先生、高橋健二先生たち、阪神地区から藤木九三さん、中原さん、水野祥太郎さん、早稲田の山田二郎さん、偶然にも京都に来ていた松方三郎さんもこの会に出席していた。会場が白熱してきた時、突然松方三郎さんが立ち上がって、“日本山岳会関西支部を設立しましょう”と言った。この一言で関西支部の

設立は認められ決定した。

設立の提唱者はR.C.C.の中心的メンバーだった。R.C.C.の内部は、創立当時からの意図から次第に外れて入会希望者も増加して、岩登り中心よりも一般的な傾向になっていた。田口一郎、田口二郎、伊藤愿さんらを含め現有会員は160名余にもなっていたという。創立当初のロック・クライミング・クラブではなく、会員数の増加と広域化によって同人ではなく、単なる山岳団体になっていくであろうというジレンマがあった。この現状を解決するには、我々が会員である日本山岳会が全国的に活発な活動をすることで、もっと多くの登山の発展を期待できるだろうが、現状のままでは、それも無理であろう。まずは支部制を採用し関東支部と関西支部を設立し、現在の本部機構は東京本部として、今までのように統括すれば問題ないと結論した。提唱者の中心は藤木九三

んだと水野祥太郎さんは言う。初代会長・小島烏水さんの任期は1933年12月までで、次期二代目会長は「日本山嶽志」の高頭仁兵衛氏である。ちなみに日本山岳会は、1905年の創立から1931年まで会長は置かれていなかった。支部設立のお墨付きはもらったものの関西支部を開設するまでには、それから2年もの歳月を要した。

1935年9月、種々苦勞の末、ようやく日本山岳会関西支部は大阪北区堂島協和銀行ビルの3階に開設した。思いにもかけない好機に恵まれ、好日山荘の向隣の部屋が空いたのである。好日山荘は「R.C.C.」にも「岳」にも「ケルン」にも深い関わりを持っていた。したがって人ごとではなく、この件では相談にも乗り一喜一憂していたのである。ようやく支部としての機能も整い活動が開始したのである。

この年、水野祥太郎著『岩登り術』が黒百合社から出版された。岩登りの解説図と共に入念に書かれた岩登りの技術書でクライマー達がこぞって所持する程のバイブル的な書物であった。また、この夏から上高地まで乗り合いバスが入るようになった。また冬山ではオーバーシューズが使用されるようになったのもこの年からである。同年5月30日、梅田-心斎橋間の地下鉄(1号線)が開通した。関西支部の前の御堂筋の地下を電車が走り便利になった。世の中の発展とともに日本山岳会関西支部も9月2日、さまざまな交渉の末、ようやく発足した。

関西支部には支部長は置かず、理事3名が代行し、あ

とは評議員と委員で運営したと聞く。顔ぶれは当時の住友電工社長別宮貞俊さん、高橋健二さん、三木高嶺さんらいずれも錚々たる方々だった。当時住友グループで構成されていた住友山岳会では『近畿の山と谷』をはじめ多くのガイドブックを出版し、登山者はその内容の詳細かつ精確さにふれ愛読していた。そんなこともあって関西支部にとってもその活動の大きな推進力になったともいえるだろう。せっかく動き出した関西支部にも戦争という暗雲が立ちこめ、若者達は銃を取って戦場へと招集されていき、一時その活動は消え去り寂しくなっていた。

1945年になると戦争も次第に終わりに近づき3月10日東京大空襲、3月13日大阪大空襲、広島、長崎とつづいた原子爆弾による被害と、日本国中の街が焼野原となってしまった。東京の日本山岳会本部も被災し、全てのものが消失して支部への送金も困難になった。関西支部ルームは幸いにも被害を免れた。

1958年、ビルの建て替えのため支部ルームは、好日山荘と共に北区老松町の日進ビル1階に移った。戦後の荒廃も人々の努力によって国の復興をめざして働いた。われわれ山岳会も夢や希望を胸に山をめざした。やがてその希望も実現してヒマラヤブームが訪れ、日本山岳会もエベレスト、マナスル等々八千米の初登頂を果たされた先輩達の苦勞は報われたのである。

(会員番号3256 関西支部評議員)

## エベレスト街道

2012年12月22日~2013年1月7日

加藤芳樹

年末、12月22日から1月7日にかけて、山本さんと茂木さんと私の3人で、ネパールにトレッキングに出かけた。最終目的地は、クーンブ・ヒマラヤのカラパタールである。標高5545m。海外登山の経験がない私には初めての高度である。カラパタールはいわゆる丘であるから、登攀技術は必要がないという。山本さんの誘いを迷うことなく引き受けた。何といても全体の旅費が15万円ほどで済むというのがハードルを下げてくれた。その代わりに、カトマンズに至るまで時間が掛かってしまうのは仕方がない。現地の段取りは、シェルパ族のペンバさんというエージェントにお任せした。

カトマンズに2泊して、予定を1時間遅れた飛行機でルクラへ。現地ではガイドのサンゲさんとポーターのニマさんが待っていてくれた。彼らはチベット系のタマン族の若者である。1日目はモンジョ泊、2日目はナムチ



カラパタール頂上にて 写真提供・加藤芳樹

ェ・バザールに宿泊し、翌日は順化日にしてもう一泊した。目が描かれたストゥーパ(仏舎利塔)や五色のタルチヨ(祈祷旗)にヒマラヤへ来たことを実感するが、自然信仰や日本人に似たチベット系の人々に違和感はない。

乾季の真っ最中なので、道中はずっと晴天だった。ナムチェのチョルクンの丘で、ヒマラヤらしいスケール感

の大きい風景に初めて接した。正面に南壁を露わにしたローツェと、その肩の向こうにそびえ立っているエベレスト、怪物のようなアマダブラムの勇姿。茂木さんがここで体調の不調を訴え、停滞も考えたが順化日を休養に充て、少し調子を戻して3人揃ってカラパタールへ向かうことにした。

大きなゴンパ（チベット寺院）があるタンボチェを経て、5日目は標高4000mを超えるペリチェに宿泊し、ここでも順化日を1日とった。ペリチェの東にある丘からはマカールを望むことができた。登りはできないが、これでこの目に8000m峰を3座焼き付けることができた。

最終宿泊地は高度4900mのロブチェだが、その手前のトゥクラ峠には、エベレストで亡くなったシェルパや登山家たちの墓碑が並ぶ。ドキュメンタリー『空へ』や日本人の難波康子さんが亡くなったことで知られる大量遭難の時にガイドを務めていたスコット・フィッシャーの名もあった。

カラパタールへはロブチェのロッジを朝4時30分に出発した。偶然だが2013年1月1日である。標高が高い上に1月の厳冬期なのだが、日中の日が差している間は寒さを感じない。しかし、この日は夜明け前ということもありさすがに寒い。山本さんが「マイナス10度」だと教

えてくれた。クープ氷河に沿って歩き、8時ごろに麓のゴラクシェブに着く。朝食をとってからいよいよカラパタールへ登り始める。標高5000mを超えた辺りから動きが緩慢になり始めた。日が差しているのに寒さはないが、ただしんどい。

たどり着いたピークは岩峰で、想像していたより山頂らしさがあった。風にタルチョがはためいている。正面にはエベレスト、氷河の端にはベースキャンプが見える。山本さん、茂木さん、サンゲさん、マニさんと握手を交わす。達成感はあるが、正直なところと言えば、高度順化だけが問題で、エベレスト街道と称されるようにこれは街道歩きと言えらるだろう。歩く旅である。登山という視点から見れば、ガイドを雇ったこともあって、自分の力で登頂したというチャレンジ感がまるでない。善し悪しではなく、ただそう感じた。ヒマラヤのど真ん中に身を置いた。そのことが山好きの人間にとっての面目躍如というところか。

この旅にはおまけがあって、帰りはルクラからの飛行機が飛ばず、日程的な制約もあってヘリコプターでカトマンズに帰ることになった。一人500ドルが安いかどうかは別にして、貴重な体験となった。

## 山の神事「三ツ山大祭」

須磨岡輯

去る3月31日から4月7日まで姫路の街は二十年に一度の「三ツ山大祭」で賑わった。それぞれに飾り付けられた「二色山」「五色山」「小袖山」を見ようと播磨はもちろん遠来の人達が「播磨国総社」へ向っていた。山の高さ18m、底部の直径10m置山三基が空を突き、余りの大きさに驚嘆の声を上げたのである。会場への道途中に



写真提供：須磨岡輯

「弁慶と書写山圓教寺」など姫路ゆかりの物語を人形に仕上げた「造り物」を高校生達らが腕を競い、十ヶ所に展示され眼を楽しませてくれた。昔の最盛期には大屋根に設えるなど三十を越える造り物が町中にあふれ、町衆の心意気と技が三ツ山と並ぶ見せ物として人気を博したらしい。その様子を「夜やら昼やら我も人も姫路中の人々総乱気せり」、祭が終わった翌日を「男女老若子供もとんと気抜けして阿房のごとし」だと江戸時代の『見聞録』が記し、姫路の町が祭に酔いしれたのが伝わっている。

三ツ山大祭のルーツは江戸時代の書『鶴足跡』（嘉永6年・1853）で、三ツ山大祭は播磨国の一宮で行なわれている「三ツ山の神事」を模したのだと記している。播磨国一宮である宍粟市に鎮座する「伊和神社」では現在も伊和三山と呼ぶ自然の山、白倉山、花咲山、高畑山を六十一年ごとに祭祀する「三ツ山祭」（直近は昭和59年）が行なわれる。自然の山を祭祀する古代信仰が現在まで伝承していることに播磨人として誇りだと思ふ。自然の山が巡らない総社では置山という姿で三ツ山大祭が行なわれることになったのは、天文二年（1533）の臨時祭からで、播磨国守護赤松政村が二十年ごとに行うよう定めたのが始めだという。合わせて、六十年ごとに行なう「一

ツ山大祭」も伊和神社では二十一年ごとに「一ツ山祭」を行ない、総社と伊和神社は切り離せない歴史で繋がっているのである。いづごろ総社へ伝播したかは定かでないが、養和元年(1181)に射楯兵主神社に播磨国内すべての神々を祀ったことで総社と呼ぶようになった。新任国司は播磨一宮はじめ播磨174の神社へ巡拝しなくなったことで、伊和神社の祭祀を模したと思うが、当時の様子は分かっていない。

今回姫路駅に参集したのは総勢19名、平時なら集団のそぞろ歩きは目立つのだが、祭ゆえ人波に吞まれながら神門前の「三ツ山」に向かった。思い思いに神事を楽し

み、満開の桜と木々萌える酒宴の弁当と神酒ことのほか旨かった。城内三ノ丸で行なわれる五種神事(流鏝馬、神子渡など)を見ようと向かったが、なかなか始まらないのと人の多さにしびれを切らせ早々に退散した。爛漫の花と二十年に一度の祭礼に姫路城内の神事は圧巻であった。次の祭礼に出合えないだろうから長く心に留めておくことにしよう。

**【参加者】**

宗實二郎・慶子 中島隆 山田博利 阪下幸一 野口恒雄 山内幸子 松村文子 須磨岡輯 9名 会員外10名 合計19名

# 支部山行報告

支部山行12-62・63 4000山グランプリ34  
**高賀山・瓢ヶ岳・今淵ヶ岳(高賀三山)**  
 橋本圭之輔

**1月26日(土)雪**

岐阜駅6:25発の高山線で美濃大田駅へ。長良川鉄道に乗換え美濃市駅に7時56分着。タクシーで板取川支流の高賀川に入り高賀神社へ。積雪は20cm程で神社までは除雪されている。神社の横から雪を踏んで林道を行くが雪が新雪で軽いから苦にならない。一度林道を離れて再度林道と交差する所が登山道入口で東屋がある。そこからアイゼンを付けて、御坂谷沿いに峠へ向う。雪は30cm程だが地面の石に爪が当って歩き辛い。風は無いが絶え間なく雪は降り続き、高度が上がるにつれ積雪が多くなる。登山道入口から1時間半のところに10人ほど入れる岩小屋がある。此处からは傾斜きつくなり疲労も増してきた。岩小屋から御坂峠まで2時間半かかった。

高賀三山はそれぞれの距離が離れているので林道を利用して時間短縮をはかる予定であった。しかし、その林道の積雪も1mを越えており、たとえ林道を利用しても無理と判断する。また、今淵ヶ岳の下山口である板山集落までの乙狩川沿いの道が除雪されていないとタクシー運転手さんから聞いていたので、今回は瓢ヶ岳と今淵ヶ岳は中止することに決定した。この辺りは美濃でも雪の少ない所で、今冬も12月に続いてまだ2度目の積雪だとのこと。運の悪い時に当たったものである。

雪は一晩中降り続きテントの周りを一度除雪しなければならなかった。

**1月27日(日)晴**



ラッセル中 写真提供：重廣恒夫

朝、雪は止んでいたが積雪は1m程増えていた。昨日、高賀山に向けて踏跡もあったのに新雪で消えていた。

ワカンを付けサブザックで出発する。膝上のラッセルだが傾斜が急になると胸までになり二人でのラッセルは大変だった。頂上に近づくにつれ晴れてきた。距離750m、標高差150mを3時間15分もかかったが、雪が無ければ快適な登山道と思われる。

やっと到着した山頂は以前は展望が悪かったそうだが木が切り払われて360度の展望である。しかし高賀山の上だけが快晴で遠くの山は雲の中という不運。白山、御嶽山、乗鞍岳、遠くは剣岳も見えると聞いていたのに残念である。

当然ながら三角点の位置は分からない。暫く展望を楽しんだ後、御坂峠へ下る。登りのラッセル跡を駆け下り35分で御坂峠着。峠で腹ごしらえをして高賀山とお別れする。峠からは昨日の踏跡も新雪で消えており下りとはいえラッセルになる。岩小屋、東屋と往路を辿り神社の

上にある円空記念館に着く。

ここが円空とどんな縁があるのかとネットで調べたところ、高賀神社は全国から山伏や信者が多く訪れた神社で、美濃出身の修験道僧であった円空も度々訪れており、最晩年の傑作と言われている三十数体の仏像を納めている思い入れのある神社であることを知った。

#### 【コースタイム】

26日 美濃市駅08:07(タクシー) 09:02高賀神社 9:36~10:13林道終点~11:21登山道入口~12:51岩小屋~15:28御坂峠

27日 御坂峠06:45~09:59高賀山10:25~11:00御坂峠11:34~12:10岩小屋~12:52登山道入口~13:25林道終点~14:00円空記念館14:30(タクシー)15:15美濃市駅

#### 【参加者】

重廣恒夫 橋本圭之輔 2名

支部山行12-64 ゆるやか山行 北摂・京都を歩く19  
丹波の山「虚空蔵山592m」

松上美代子

#### 1月24日(木)晴

春を迎え初のゆるやか山行に参加。福知山線草野駅集合、広場にて準備体操をして体を解し、リーダーから安全の為に逆コースから登る説明を受け出発。

登山口からいきなりの急登。朝露に濡れた落葉に足を取られそうになりながら、お正月明けの不摂生を反省しつつ登るにつれ息は弾み、自分の頭の上に前の人の足が…立木や木の根に頼り頻り登ると右に大きな露岩。皆さんはスイスイと岩へ、私は巻道へと登る。

山上山を越えP417の大谷山から鞍部へ下り左の緩やかなトラバース道に入ったが段々と足場が悪くなるので引き返し、稜線に戻り冬木立ちの中を登る。100円の品を1000円で買ったような気分になりながら登り返すと496m三等三角点の八王子山の標識。ここで集合写真を撮り次のピークへ。双峰なのか540m八王子山の標識。大寒中とは思えない穏やかな青空の下で昼食を頂き出発。

冬枯れた樹木の尾根をルンルンと進み、山頂まで150mの標識を横目に登りきるとパッと開けた今日の目的の「虚空蔵山(592m)」頂上。南西に播磨灘、南に淡路島、南東には有馬富士、六甲山系の山並みと広がっているが残念な事に気温が高いのか霞んでいる。

北の方にはアカガシの大木が阻んでいるが西のテラスに乗ると北摂の山並みや陶の里が見える。足場にあるチャターを立てたように薄い岩が何枚も重なって立っている

のが気になり阪下氏に教えていただく。「これが海底が隆起して出来た石灰を含む丹波岩でこれを砕き立杭焼を作る」と。ゆっくり休息を取り出発。

下り始めると右に大きな丹波岩の露岩のテラスあり。リュウブの木が目につき少し下ると小さな祠があり中に役行者像。ふと足元を見ると獣の足に見えたがよく見ると草履であった。静かな古いお堂のある境内に出た。昔聖徳太子が霊夢により藍本の鎮守の森として祀られた「虚空蔵堂」で屋根は書写山や彦根城天守閣と同じ造りで堂々とした立派なもの。境内には丹波岩で作った姫路城と同じ鯨銚も立っている。昔この山のうば谷へ老婆が自ら入った哀れな姥捨伝説も書かれていた。

歴史を感じながら表参道下り藍本集落の酒滴神社へ。ここも疫病が流行った時神示により大岩から滴る神水を呑むとお酒であったという云われあり。思うにこの山全体が村々の鎮守の山であり虚空蔵菩薩という仏の名が付いているのだろうかと思って歩いているとホームに電車が。走って走って飛乗り三田駅にて有志で酒滴を頂き今日一日の満足な山行を喜びほろ酔いで家路に…

#### 【コースタイム】

油井バス停09:26~10:21山上山~10:41P 4 1 7~11:36△八王子山~13:19虚空蔵山~14:30虚空蔵堂~15:48酒滴神社

#### 【参加者】

山内幸子 松波幹夫 久保和恵 新井浩 岩崎しのぶ  
浦上芳啓 大西保 金井健二 阪下幸一 戸島泰三郎  
中島隆 橋本圭之輔 平井一正 松上美代子  
(会友)岐部明弘 黒岩敦子 中野峰子 横山規江  
(会員外)新井幹子 小林三喜男 中田栄 計21名



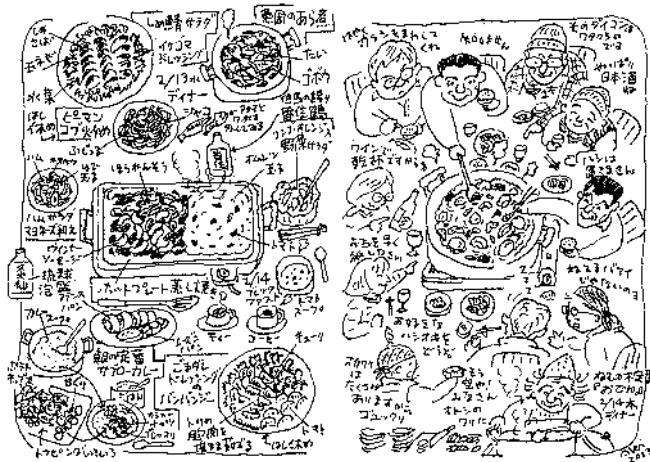
虚空蔵山頂上

写真提供：中島隆



支部山行12-67・68・69 近場でスキー  
ハチ高原にて

廣田猛夫



イラスト提供：橋本昭

今年の「近場でスキー」は、ここ数年恒例になっているハチ高原の「ねむの木山荘」をベースに山荘オーナー兼シェフの高田誠会員と管理人代行の橋本昭さんのお世話になり2月13日(水)～15日(金)の3日間で実施された。参加者は阪下車と廣田車の2台に分乗し、舞鶴自動車道西紀SAで合流しハチ高原へと向った。

初日(13日)は天候が今ひとつの上、中学生のスキー教室で混雑しているハチ高原スキー場を避けハチ北スキー場へ移動してリフトの制限時間ギリギリまで滑り込み、夕刻「ねむの木山荘」に帰着。夕食は高田シェフが腕を振るって下さった鯛のあら炊きと地元産の太い地牛蒡の付け合せに舌鼓を打つ。

二日目(14日)は、快晴に恵まれハチ北スキー場で終日滑る。日が高くなるにつれ関西特有の湿雪の重たい雪に変わり滑り難くなったが、山内さんと戸島さんの二人がスキー場上部の急なオフピステの斜面を滑っていたのには脱帽しました。滑り疲れて戻った山荘では山盛りのおでんでの夕食が待っていました。

最終日(15日)は、朝からゲレンデに出掛けるのが躊躇われるほどの雪が降っていた為、快適なスキーは期待出来ず、各自思い思いの時間を過ごし昼前に楽しかった山荘を後にした。途中、道の駅で昼食を済ませたあと、近くの「天女の湯」でスキーでの汗を流し、楽しかった「ねむの木山荘」ライフを胸に帰途に着いた。

【参加者】

宗實二郎、宗實慶子、金井健二、阪下幸一、阪下悦子、山内幸子、久保和恵、戸島泰三郎、廣田猛夫 9名

支部山行12-S2 関西支部県境縦走2  
帆坂峠～船坂峠～才ヶ峠

宗實二郎

2月16日(土)晴

JR播州赤穂駅からタクシーで第1回県境縦走終了地点の帆坂峠に向かう。身支度ののち岡山県寄りの夜泣き地蔵から国道の金網に沿って岡山兵庫の県境表示より山に入る。急な登りが続く。ヒサカキ、コナラ等の林にシダが多くなる。前回のイバラは消えて歩き易い。傾斜がゆるみ、三角点「帆坂」で昼食。ここからも緩やかな起伏で、前方に明日歩く播磨自然高原別荘地が見える。この辺りは地図で見るより地形が複雑である。下に池があり、そこかしこに地肌が露出している。採石場の跡で、ここの鉱石は岡山県の五石方面で耐火煉瓦になる由。『左船坂村 右有年』の石の道標をみて、五石への分岐を通る。JR西日本の高压送電線の下を通過、鉄塔には『有年～三石38』と表示され、山陽本線が近いのだろう。車の音がきこえ国道がみえる。踏まれて広がった道を下ると船坂峠である。東に下り車止めをまたぎ、山陽本線の踏切に到着。ここで今夜の宿『上郡ピュアランド山里』からの迎えの車に乗る。

2月17日(日)晴

宿の車で昨日のJRの踏切を渡った処に送ってもらう。船坂峠を西に越え、雲井戸から県境に向かう。『播備国境』『東宮殿下行啓記念』と『船坂山義拳之跡』と刻まれた大きな碑が目についた。小学校六年の文部省唱歌『児島高德』の歌詞に“船坂山や杉坂と御あとと慕いて院の庄…”とあった。昔は険しく難渋した船坂峠は山陽本線、国道2号線、杉坂峠は中国自動車道で越えられる。

切り開かれた道は播磨自然高原の別荘地が続いて、迷路のような建物の中を通り、落ち葉に埋まった船坂山に



旧2号線の船坂峠に下り立つ 写真提供：重廣恒夫

登る。冬の故か人影がない。窪みを横切り石堂丸山にとりつく。三角点は「三石」である。頂上から瀬戸内海が見えた。赤穂から3日間歩いただけだ。炭焼き窯があり、展望のない三角点「奥山」で宿の弁当を摂る。県境沿いに所有者の白い標識があり、『山サキ』と刻まれた石柱も見かける。三角点「柳ヶ底」から県境は踏み跡がつき藪を分けることもなく、山を削った作業道にでる。オケ峠の地蔵尊は傷ついて『文政4年巳年』とあった。東に下りて行頭の集落にでる。遠くに廃校になった小学校分校をのぞんだ。タクシーを呼びJR上郡駅にでた。2日間、歩き易い天気あった。

### 【コースタイム】

16日 JR播州赤穂駅09:50(タクシー)10:20県境復帰点  
10:30~11:40帆坂峠12:10~14:25 P 2 7 4 14:32~15:08  
五石長谷分岐16:30~16:52船坂峠(送迎車合流)

17日 縦走開始点08:26~09:08船坂山~09:46石堂丸山  
10:06~11:34奥山△12:15~13:33柳ヶ底△13:42~14:49  
丸山△~16:25オケ峠16:30~17:11行頭

### 【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代 清瀬祐司 阪下幸一  
須磨岡輯 辻和雄 橋本圭之輔 前田正彰 松村文子  
水谷透 山本義博 宗實二郎、(会友)松村竹次郎、(会  
員外)稲葉淳一 大和紘 16名  
16日のみ 岩崎しのぶ、(会友)魚津清和 2名

### 支部山行12-70

ゆるやか山行 北摂・京都西山・北山を歩く20  
音羽山から高塚山・醍醐寺

岩崎しのぶ

### 2月21日(木)晴

今回は総勢29名の大所帯だ。案内役の秦さんとは音羽山で合流する予定。

京津線大谷駅近くの蟬丸神社に集合。石段下には盲目の琵琶法師蟬丸の歌碑と蟬丸神社の由緒の碑がある。石段を登り社殿脇から東海道自然歩道に入る。国道1号線の高架を渡り登山道に取りつくのが、いきなりの急登だ。1日のみ参加した県界縦走の後遺症が未だ残る足はやたら重い。雪のちらつく杉林の中、木段を登り詰めるとN T T電波塔のある広場に出る。ここから自然林の緩やかな登りに変わる。次第に積雪は多くなり、音羽山山頂は5センチの積雪だ。京都・山科の街並み・琵琶湖が眼下に広がる。秦さんはどうやら待ちくたびれて次のパノラマ台でお待ちようだ。三角点の前で記念撮影後、ベン

チのある広場で昼食とするが、寒いので早々に出発。

一旦緩やかに下り、登り返すとパノラマ台に出た。広場では数人の登山客に混じって秦さんが待っていた。ここからの琵琶湖大橋の眺めは素晴らしい。雪は次第に少なくなっていく。急なジグザク道を下り牛尾観音に到着。金生水という有難い霊水は疲れた足に活力を授けて下さった。少し下った桜の馬場で朽ちかけた橋を渡り川沿いの道を進む。横嶺峠の分岐点で大きく右折し、殆ど水平道を辿ると高塚山だ。今日のコース2つ目の三角点を前に記念撮影。

ここから私にとって魔の下りが始まる。長尾天満宮までの緩急を繰り返す山道はやたら長くきつく感じられた。天満宮にお参りし、無事歩き通せたことを感謝申し上げますと共に、先輩方の余力たっぷりのパワーを少しでも私に分けてくださいと密かに祈念した。地下鉄の醍醐駅まで歩き解散となる。

### 【コースタイム】

蟬丸神社09:45~10:45 N T T電波塔11:05~11:36音羽山  
12:15~12:37パノラマ台12:41~13:09牛尾観音13:29~  
13:39桜の馬場~14:36横嶺峠分岐~14:42高塚山14:49~  
15:30鉄塔下15:39~15:47長尾天満宮16:00~16:10醍醐  
寺門前~16:23地下鉄醍醐駅

### 【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 新本政子 内田嘉弘 内  
田昌子 浦上芳啓 大塚宏暎 大塚和子 金井健二 高  
村奉樹 戸島泰三郎 橋本圭之輔 秦康夫 平井一正  
松上美代子 松波幹夫 宗實慶子 森澤義信 魚津清和  
岐部明弘 中野峯子 蓮川博凡 横山規江 浅田博三  
小林三喜男 中川富夫 中田栄 岩崎しのぶ 計29名

### 支部山行12-71 雪上研修会

比良山びわ湖バレーにて

野口恒雄

### 2月23日(土)曇時々晴一時雪

参加者は急に取り止められた方もおられて4人になったが、山本一夫講師の指導の下で標記研修会が行われた。

ゴンドラに乗ってびわ湖バレースキー場の山頂駅へ上がり、駅舎内で服装を整え研修現場の山頂東面の雪原へ移動した。ちょうど研修現場には未完成ではあったが大きなイグルーが造られていた。

10時過ぎより研修がスタートした。まず、つぼ足歩行で周囲を少し歩き、付けられた足跡から歩き方の注意を説明された。少し高みに登ったところで、テント設営適

地はどこかと問われ、設営時のポイントをあげながら適地を例示された。設営にあたってはテントの大きさから位置を決めて整地、そして防風壁を作ることになる。参加者で協力して作業した。次にワカンをつけてワカン歩行。緩斜面、急斜面と傾斜を変えて歩き、足の出し方などの注意点を説明された。体が温まったところで弱層テストを行う。雪面を掘込んでシャベルの大きさほどの雪柱を作り、ポンポンテストを行った。シャベルを雪柱の上において、そこをポンポンと叩く。叩く力を徐々に強めていくと、雪柱にズレる箇所が出現する。ズレたところの雪面はザラメ雪で、雪崩の滑り面になる。話では聞いていたが、実際には始めて目にした。ここで12時も過ぎたので、先ほど作った防風壁を背にお昼にした。



実のある研修を終えて 写真提供：魚津清和

午後は、雪庇の下部にできている急斜面に移動し、直登・トラバースでのピッケルの使い方を練習し、雪壁となっている雪庇下部の斜面を登るときにはダガーポジションについての説明を受ける。上がった次は、滑落停止の練習。雪面は新雪が被っているため、練習するには条件は良くないが、左回り、右回りと状況を変えてピックを打ち込み滑落を止める。昨夜降った新雪が多いので全員雪まみれになる。一息ついてからスノーボードの設置工作、スノーピケット等の設置上の注意点などの指導を受ける。ロープにぶら下がりアンカーの強度も確認した。最後にスノーマウンドを作った。簡易雪洞で雪が少ないときの簡易シェルターとして使用することになった。作ってから気づいたが、ザックの置き方など工夫することにより内部が広いシェルターができることも分かった。そんな反省もして講習は修了した。

研修に先立って手渡されたレジュメには、講習内容が数多く列記されていた。私にとっては、このような講習を受けたのは、新しい技術の獲得や復習でもあって有意義な一日だった。

### 【参加者】

山本一夫 山内幸子 黒田記代 野口恒雄 (会友) 魚津清和 5名

### 支部山行12-72 五支部山スキー登山 妙高高原・前山

安井康夫

#### 3月2日(土)雪

恒例の五支部山スキー登山が京都支部担当で妙高高原において開催された。前夜、横浜の佐野さんに乗せて東京を出発、翌朝杉の原スキー場に到着してとりあえずゲレンデスキーを楽しむ。「2年ぶりのスキーで自信がない」と言うが何のその、実に安定したフォームで流石なものだ。前日から現地入りしている新本・廣田両氏と連絡が取れて途中から合流。現地に5年住んでいるという新本さん知人のN氏に林間を案内されてパウダーも楽しむ。佐野さんと同行された廣田夫人は終始ゲレンデを滑降。廣田夫人もスキーがうまい。

14:00杉ノ原スキー場をあとにして宿舎の「香風館」へと向かう。関西支部は、新本、河野、阪下夫妻、佐野、廣田、宗實夫妻、安井の9名が参加した(廣田夫人は別宿に泊)。富山8名、岐阜6名、福井8名、京都・滋賀8名で総勢39名の若者が妙高高原に集まった。高年齢者は83歳で平均年齢69歳。お世辞ではないが若さとパワーを感じる。18:00田中昌二郎京都支部長の発声で懇親会を開催、久しぶりの交流を楽しむ。舞台一杯に並べられた差し入れのお酒は見るみるうちにご馳走とともにお腹へ。

#### 3月3日(日)晴時々曇

翌日は、一昼夜降り続き50cmほどのベストコンディションの積雪に気を良くし、入浴、準備、朝食とあわただしい中で宿舎を出発する。ほぼ時間通りに赤倉観光リゾートスキー場に到着。関西の阪下・宗實・廣田各氏の各夫人と佐野さんは終日ゲレンデスキーを楽しむ。ゴンドラから上部リフトに繋いで最終点でシールを付ける。今回は日本アルペンスキー学校の長谷川喜行氏がガイドに付かれ、同校の山本コーチもサポートに加わった。高年齢者による山スキー登山を考えると適切な措置だと考えさせられる。いよいよ出発。ブナ林の樹林帯を長い列が上へと延びる。ガイドのリードは適切で、みんな余裕の顔つきである。標高1750m付近になるとブナ林もまばらになり、傾斜も急になってシール登高に苦勞する人も何人か現れる。太陽がときどき顔を出し、気持ちのよい風

が頬を撫でる。12:20前山山頂(1932m)に到着。全員が揃うまでにたぶん1時間ぐらいかかったと思うがみんな疲れを見せない。

昼食を済ませ、山頂直下のやせた尾根をひとりずつ慎重にダイブする。中には横をかつ飛ばす人がいたがルールは守って欲しいものだ。関西は廣田さんを先頭に安井がしんがりを務める。急な斜面は次第に緩くなって深雪のブナ林へと導かれる。私もおいしいパウダーをいっぱいご馳走になる。どこまで滑ってもパウダーは続き、「すばらしい」の一言だ。

標高1350m地点から沢を渡り対岸へ取り付く。若干の登りを終えるとゲレンデに出る。全員が広いバーンを満足げに滑降して14:30無事登山を終了する。参加者の安全を確認後、田中支部長の閉会あいさつで来年の再会をみんなて誓った。



前山頂上にて憩うひととき 写真提供：廣田猛夫

### 【コースタイム】

ゴンドラ乗り場09:10～09:15リフト終点～12:00前山山頂12:40～14:00沢～14:30ゴンドラ乗り場

### 【参加者】

関西支部：廣田猛夫 新本政子 河野直子 阪下幸一・悦子 佐野加代子 宗實二郎・慶子 安井康夫 9名  
京都支部：8名 福井支部：8名 岐阜支部：6名 富山支部：8名 合計39名

### 支部山行12-S3 関西支部県境縦走3 オケ峠～山伏峠～奥山

村田かおり

### 3月16日(土)晴

行頭10時23分発。暖かい小春日和の中、元気よく発進。分岐に若干惑わされながらもまずは県境分離点のオケ峠に戻る。峠から約20分で最初の三角点P288.9に到着(四

等「長谷」)。「山」の境界標石を幾度も確認しながら快調に歩を進め12時に次の三角点P342.6(三等「延野」)に到着。頭が真っ赤の三角点は四隅も欠けてかわいそうだった。松の樹林帯の中で昼食を取り、引き続き山伏峠へと出発。歩き始めて間もなく前方からがやがやと声がする。ふと前を見ると阪下さんが何やら手に持っている。木の枝に大きな瘤。自然の妙だがなかなか味わいのあるオブジェを発見したようだ。「本日の収穫ですね」の声の中、仙人もびっくりの芸術的な枝をお供にいざ山伏峠へと歩を進める。比較的道のついた箇所もあるが笹藪もありコンパスでの位置確認は欠かせない。13時40分お地蔵さんの待つ峠に到着。傍には「従是西備前」の石碑が建っている。計画ではここまでの予定だったが、2時間以上早い到着につきこのまま尾根の取付へと進む。峠からはいきなりの急登。20分程歩くと笹藪の中に石積が見える。何に使われていたのだろうか。P355を過ぎゴルフ場分岐まで歩を進めたところでこの日は終了となった。

### 3月17日(日)晴

準備体操の後、青木功ゴルフ場を出発。35分で昨日の分岐点に到着。植林の尾根を順調に進み、最初の三角点(四等「鳳宮北」)に到着。松の植林帯を進み奥畑・小屋尾峠までは40分で到着。予定より1時間早いペースである。小休止の後、時折林道と合流しながら歩を進めると北東の池を過ぎた辺りから湿地帯に入り込む。ぬかるみに足を取られながら進むが、今度は鹿避けのネットに阻まれ思うように進めない。ネットを避け東に迂回をしながら通常ルートへと復帰。小休止の折に現在地を確認するが、先程の湿地帯以降の記憶が怪しくCLに位置を確認する。再度、地図とコンパスを合わせ出発。約15分で近畿自然歩道に合流。近畿自然歩道の大きな看板があり、ここからは了解を得て一旦私有地を抜ける。30分弱で石道標のある大平峠に到着。更に笹藪を抜けP372を通過し三角点(四等「奥山」)に到着。P406までは倒木もあるが、植林帯の比較的歩きやすい道が続いた。ここで今回の県境踏査は終了。養鶏場に向けて北東の尾根を下り、大日山集落からタクシーで上月駅に下り、電車を待つ間小宴会をして県境縦走第3回は無事終了となった。

### 【コースタイム】

16日 行頭10:23～11:02オケ峠～11:20長谷(P288.9)～12:00延野(P342.6)～13:40山伏峠～14:54ゴルフ場分岐～15:40青木功ゴルフ場

17日 青木功ゴルフ場08:05～08:40峠～09:14鳳宮北(P385.5)～09:54奥畑・小屋尾峠～12:50大平峠～13:14P372～13:48奥山(P431.6)～14:43P406～15:25大



三等三角点・延野にて 写真提供：重廣恒夫

日山集落

**【参加者】**

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代 新本政子 清瀬祐司  
 阪下幸一 橋本圭之輔 前田正彰 松村文子 水谷透  
 村田かおり 山本義博、(会友)黒岩敦子 魚津清和 14  
 名 (16日のみ) (会員外)青木昭 稲葉淳一 2名

**「本山寺山森林づくりの会」作業報告**

秦 泰夫

2013年3月7日(木) 9:30～15:30

作業場所：44林班の東海自然歩道周辺

作業項目：1) 間伐 2) 除伐 3) 林床整備

2班に分かれて前回伐り残し分の間伐作業を行い、20  
 数本伐倒した。直径27cm、幹回り85cm(65年生程度)の松  
 が枝懸かりとなり処理に手間取ったが、阪下さん持参の  
 チェンブロックが今回も威力を発揮してなんとか処理  
 できた。枯損木や曲がり木の除伐もはかどり、樹冠が開  
 いて林間は大分明るくなった。急斜面で後処理作業がや

り難かったこともあり伐倒しただけで放置した材もある  
 が、表土流失防止効果も期待できるので、この地形では  
 伐り置きのままにしておく方がいいかも知れない。斜面  
 で玉切りした材が、下で作業している人の近くに滑り落  
 ちてひやっとする場面があり、斜面で上下に分かれての  
 作業は厳禁、という鉄則を再認識した。テキストにもう  
 一度目を通し、今後、なによりも安全第一主義を徹底し  
 て作業する必要があると思う。

参加者：斧田、阪下、武田、薦田、宮本、秦(計6名)

2013年3月31日(日) 9:30～14:30

作業場所：44林班内

作業項目：間伐班 1) 間伐 2) 除伐 3) 林床整備、作  
 業地案内班 作業地の案内及び植生説明

3月30日～31日、第7回「日本山岳会森づくり連絡協  
 議会」が高槻森林観光センターで開催され、広島、関西、  
 京都、四国、岐阜、福井、東海の各支部、及び高尾の森  
 づくりの会より、総勢42名が参加した。第1日の30日  
 には各支部の森づくり活動報告があり、関西支部の本山寺  
 山森林づくりについて斧田事務局長の全般的な活動報告  
 のあと、増永会員が本山寺山作業地内の植生調査結果に  
 ついての報告を行った。31日は、連絡協議会参加者が9  
 時30分本山寺参詣者用駐車場に集合。間伐班は作業地で  
 間伐作業等を実施、作業地案内班は、参加者20名を案内  
 して作業現場を見学後、44林班内の植生等を現地で説明  
 したのち、ポンポン山ハイキングに向かった。(秦記)

参加者：間伐班 阪下、松波、薦田、宮本、須本、秦  
 作業地案内班 重廣、金井、辻、斧田、中村  
 (計11名)

**第7回日本山岳会森づくり連絡協議会の開催**

金井良碩

日本山岳会が、昨年度より公益法人化されたことにと  
 もない、公益性が高い森づくりが注目されることとなり  
 ました。その結果、森づくり連絡協議会が自然保護委員  
 会とは別に日本山岳会内の各種委員会と同等の位置づけ  
 に格上げされました。

関西支部では、従前より、東お多福山草原保全・再生  
 のため、ブナを植える会など8団体と協働で、ススキ草  
 原復元活動に取り組んできたところですが、昨年度は新  
 たに「本山寺山森林づくりの会」を設立しました。

約2年間の準備期間を経て、昨年5月に、近畿中国森  
 林管理局長と日本山岳会関西支部長との間で、「社会貢

献の森における森林整備等の活動に関する協定書」を締  
 結し、さらに6月には「本山寺山森林づくりの会」を発  
 足致しました。その設立総会は、6月17日本山寺境内で  
 開催され、規約の制定と、役員の人選がなされ、その結  
 果、金井良碩会長、秦康夫副会長、斧田一陽事務局長が  
 選出される運びとなりました。現在、会員外参加者10名  
 を加え、30名で活動していますが、参加登録者数は日々  
 増加中です。

日本山岳会では、第7回森づくり協議会の開催にあたり、この新たに発足した「本山寺山森林づくりの会」の新規参加の歓迎もこめて、大阪府高槻市の「高槻森林観

光センター」で実施することとされました。

協議会は、3月30・31日の二日間で実施されました。日本山岳会本部は吉永英明副会長を派遣され、森づくりを実施している7支部からは40名の参加者が集いました。高尾の森づくりの会代表河西瑛一郎氏の司会進行の下で、各支部の森づくり活動の報告と活発な意見交換がなされました。また、高尾、猿投、本山寺山のそれぞれの森づくりの会からは森づくりに関して、植生や獣害などの研究発表が行われました。あわせて、高槻森林センターが取り組んでいるペレットの工場見学を行いました。ちなみに、センター内の檜田温泉はこのペレットを燃やして湯温を保っているとのことです。

夜は、センター内の里山レストラン「ささゆりの里」で、各支部が持ち寄った酒を味わいながら、バーベキューを楽しんで親睦を図ったところです。二日目は本山寺山森林づくり作業現場の視察の後、ポンポン山に登頂しました。頂上で昼食に味わった高槻名物の

太巻き寿司は特に好評でした。関西支部からは、重廣支部長はじめ17名(うち会員外5名)が参加し、会を盛り上げたところです。

#### 【参加者】

重廣恒夫 金井良碩 斧田一陽 桑田結 秦康夫 阪下幸一 辻和雄 中谷絹子 河野直子 薦田佳一 松波幹夫 会員外5名



本山寺前にて 写真提供：重廣恒夫

## 県境縦走で出遭った大きな虫癭始末記

阪下 幸一

県境縦走の3月例会で1日目に昼休みした点名・延野を出発して間もなく灌木の尾根の脇で大きな虫癭(ちゅうえい)の付いた枝を拾った。癭の大きさは人の頭位あり、枝の太さは5cm、長さ1m余り、重さ3kg位ある。木肌は濃い茶色で光沢が有り珍しいので掲げて1時間半ばかり歩いたが重い為、山伏峠に出た時に地蔵さんの祠の裏に置き、縦走を続けた。

一週間後に車で回収にいった。峠の手前で鹿が車に撥ねられていたが虫癭は無事回収した。帰りにかねて行ってみたかった智頭急行沿線の赤松の里に寄った。苔縄駅の近くの苔縄城址は、赤松円心が後醍醐天皇の呼びかけで北条討幕の旗揚げをした城。麓に円心が開山した法雲寺があり、裏山が苔縄城で遊歩道が整備されていた。

下山後、法雲寺に寄る。大塚住職と話をしている中で虫癭回収の件も話題になったのでお見せした所、「非

常に珍しいので是非とも戴き、寺の宝にしたい」と言われた。言われて迷ったが虫癭の為には最善の場所と思いついておくことにした。

虫癭について神戸市の「緑の相談所」で聞いたところ、木の幹が何らかの原因(虫、カビ、蔓等)で養分の

下降が制限された所に養分が溜り、瘤が出来る。小さいのはよく見られるが、今回の様な大きな虫癭は珍しいとの事。



虫こぶ回収 写真提供：阪下幸一

## 2013年7月～9月 支部山行計画

※申込み先は後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

### 13-12 4000山グランプリ

四国 東三方ヶ森・明神ヶ森

日 時：7月6日(土)・7日(日)

コース：6日 徳島＝川内IC＝横河原＝木地＝阿歌  
古溪谷＝1000mピーク＝東三方ヶ森(往復)

7日 神子野＝奥黒滝＝稜線＝明神ヶ森(往復)  
＝川内IC＝徳島解散

地 図：2.5万分の1「東三方ヶ森」「御内」

備 考：四国支部との合同山行 一般参加可 山岳保  
険加入が必須

申込み：6月23日迄 久米久夫

### 13-13 大峰の名花「オオヤマレンゲ」を見に

弥山から八経ヶ岳

日 時：7月13日(土)・14日(日)

集 合：13日 9時 近鉄南大阪線橿原神宮駅前中央  
改札前

11時 行者還トンネル西口駐車場

コース：13日 西口駐車場＝石休ノ宿址＝弥山小屋  
(泊)

14日 弥山小屋＝八経ヶ岳＝明星ヶ岳＝北西  
尾根＝高崎横手＝狼平＝弥山小屋＝石休ノ宿  
址＝西口駐車場＝橿原神宮前駅解散

備 考：7月上旬はオオヤマレンゲの花時です。マイ  
カー利用、車での参加歓迎します。

悪天候の時は順延です。

申込み：6月23日迄 阪下幸一

### 13-14 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる4

額井岳(大和富士)813mから戒場山738m

日 時：7月18日(木)

コース：榛原駅＝天満台＝額井岳＝戒場山＝戒長寺＝  
榛原駅

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く  
山行で詳細は参加者に連絡します コースを  
変更する場合があります

申込み：7月10日迄 久保和恵

### 13-15 関西支部県境縦走7

日 時：7月20日(土)・21日(日)

コース：6月までの進捗状況によりコースが決まりま  
す HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：7月6日迄 黒田記代

### 13-16 海外山行

パプアニューギニア最高峰「ウィルヘルム山4508m」

日 時：7月27日(土)～8月3日(土)

コース：ケグスグルーピュンデ湖畔＝ウィルヘルム山  
＝ピュンデ湖畔＝ゴロカーロアタ島

参加費：398,000円(最少催行人数10人)

※燃油サーチャージ、ビザ取得費用、成田空

港使用料、海外旅行傷害保険料別途要。

備考：パプアニューギニア・ビザ取得および海外旅行傷害保険への加入必要（申込者にアルパインツアーより案内）

申込み・問合せ：アルパインツアーサービス大阪支店

### 13-17 4000山グランプリ

梅海新道

日時：8月12日(月)～15日(木)

コース：親不知駅—梅海新道—朝日岳—鉢ヶ岳—風吹岳—平岩駅

地図：2.5万分の1「親不知」「小川温泉」

備考：詳しくは担当者にメールで問い合わせください 難易度の高い山 テント山行 一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：7月30日迄 重廣恒夫

### 13-18 関西支部県境縦走8

日時：8月24日(土)・25日(日)

コース：7月までの進捗状況によりコースが決まります HP等で確認してください

備考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：8月10日迄に 山内幸子へ

### 13-19 四国支部合同の沢登り

四国吉野川源流 白猪谷

日時：8月31日(土)・9月1日(日)

集合：

コース：30日 夜大阪発 高速道途中で仮眠  
31日 出合広場—源流モニュメント付近泊  
1日 源流—瓶ヶ森—帰阪

地図：2.5万分の1「瓶ヶ森」

備考：雨天または屏風谷の水量が多い場合はコースを変更します

申込み：8月20日迄 茂木完治

### 13-20 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる5

湖北の山・呉枯ノ峰

日時：9月5日(木)

コース：木ノ本駅—呉枯峰—菅山寺—木ノ本駅

備考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行で詳細は参加者に連絡します コースを変更する場合があります

青春18切符利用可

申込み：8月28日迄 久保和恵

### 13-21 4000山グランプリ

四国「陣ヶ森・工石山」

日時：9月7日(土)・8日(日)

コース：7日 徳島=大豊IC=郷ノ峰トンネル—陣ヶ森(往復)

8日 工石山青少年の家—杖塚—サイの川原—工石山—北の頂—杖塚—青少年の家=高知IC=徳島(解散)

地図：2.5万分の1「西石原」「土佐山」

備考：四国支部との合同山行 一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：8月25日迄 久米久夫

### 13-22 関西支部県境縦走9

日時：9月22日(日)・23日(月)

コース：8月までの進捗状況によりコースが決まります HP等で確認してください

備考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：9月10日迄 山内幸子

#### 申込み先一覧

久米久夫	e-mail : ta-ko325@shirt.ocn.ne.jp
阪下幸一	e-mail : k-s9012@maia.eonet.ne.jp Tel&Fax : 078-741-3732
久保和恵	e-mail : unclertorys05-kazu@nifty.com Fax : 079-565-0530
黒田記代	e-mail : kuroda@makino.kmu.ac.jp
アルパインツアーサービス(株)大阪支店	大島、三木、竹森 Tel : 06-6444-3033 e-mail : osaka@alpine-tour.com
重廣恒夫	e-mail : shigehiro-ts@asics.co.jp
茂木完治	e-mail : yib03510@nifty.com Tel&Fax : 06-6339-0959 080-3103-6770
山内幸子	e-mail : sacchyama2f0710@m5.gyao.ne.jp

#### ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

##### 1stステップ

初級『地図とコンパスを持って北摂の山を歩く』

6月4日(火) 広照寺山～寺山～高畑山

7月2日(火) 上之岳～鳥飼山～昼ヶ岳

中級『沢歩き』

6月20日(木) 船坂谷～大平山

7月25日(木) 赤子谷～岩原山

上級『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

6月6日(木) 百丈岩周辺

7月4日(木) 不動岩周辺



2ndステップ

初級

8月8日(木) 座学「地図とコンパスの見方・使  
い方」

9月10日(火) 向山～鎬射山

中級

8月8日(木) 座学「地図とコンパスの見方・使

い方」

9月26日(木) 西滝ヶ谷～六甲最高峰

上級

8月8日(木) 座学「地図とコンパスの見方・使  
い方・沢登りの基礎知識」

9月12日(木) 金剛山・妙見谷

2013年7月～9月 自然保護行事

1 東お多福山草原復元活動

夏の植生調査、管理作業

日 時：7月24日(水) 予備日25日(木)

集 合：9時30分 土樋割峠

(9:05 東お多福山登山口、8:45 芦屋川駅)

2 自然観察会

大台ヶ原周辺 夏の冷温帯樹林の観察

日 時：8月21日(水)～22日(木)

大台山の家宿泊(予定) 詳細は参加希望者に別途連絡

3 第17回森の勉強会

テーマ：六甲の森と草原

日 時：10月5日(土)～6日(日)

場 所：兵庫県立人と自然の博物館3階

中集会室(入館利用可)

講 義：森林と草原の静態：武田義明(神戸大学発達  
科学部名誉教授)・ネザサ草原からススキ草  
原：橋本佳延(人と自然の博物館研究員)・ブ  
ナを植えて30余年：桑田結(ブナを植える会  
会長)

観 察：紅葉谷道ブナ自生地と育樹地 六甲最高峰ブ  
ナ育樹地 東お多福山ススキ草原復元地

宿 泊：有馬温泉 プリンセス有馬(予定)

会 費：19,000円(予定)

備 考：関西・東海・京都支部自然保護委員会共催(関  
西支部担当)

定員25名先着順で締切り

兵庫県立人と自然博物館協力事業(実施予定)

4 本山寺山森林づくりの会活動

活動日：7月18日(木)・8月18日(日)・9月19日(木)

作業内容：林内整備 間伐 作業道整備 植生調査な  
ど

5 2013年度自然保護全国集会

場 所：立山弥陀ヶ原

日 時：7月6日(土)～7日(日)

申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556/090-4037-4542

・東お多福山草原復元活動・自然観察会 2週間前迄

・本山寺山森林づくり 1週間前迄

「蔵書を読む会」のご案内

ルーム蔵書の整理も進みました。貴重な図書や  
すばらしい本がそろっています。年に4回「蔵書  
を読む会」を開催しますので、ご参加をお待ちし  
ております。

第一回開催 7月17日(水)

第二回開催 9月25日(水)

時間 いずれも午後1時～午後5時(予定)

会場 関西支部ルーム

〔図書委員会〕

# ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 [税抜]  
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

《草川啓三・山の本シリーズ》

- 極上の山歩き**  
 関西からの山12ヶ月  
 1 500円
- 登る、比良山**  
 比良山系28山・72コース 湖の山道案内  
 1 800円
- 琵琶湖の北に連なる山**  
 近江東北部の山を歩く  
 1 800円
- 近江湖西の山を歩く**  
 1 900円
- 伊吹山案内**  
 登山と山麓ウォーキング  
 1 900円
- 近江の山を歩く**  
 2 000円



ヤマノイモ (本書より)  
ムカゴ飯は、まさに山の味!

道下暁子 著 (金剛練成会会員・元料理教室講師)  
ハンディ判 オールカラー 92頁 1200円  
登山、トレッキングのおみやげに、そつともらった山野草から、朝餡、夕餡の一品を作って楽しませんか? 本書では、下ごしらえの注意から、レシビと出来上がりの料理まで、カラー写真でていねいに紹介します。

## おいしく食べられる 山野草の料理



奈良・釈迦ヶ岳

一等三肉點研究会 編著 A5判 260頁 2000円  
北海道から沖縄まで五百米以上の全一等三角点について、標高・基準点コード・選点・地形図名・経緯度・所在地と写真を掲載し、研究会の会員が実際に辿った出発地から登山口を経て三角点までの登山道を案内。

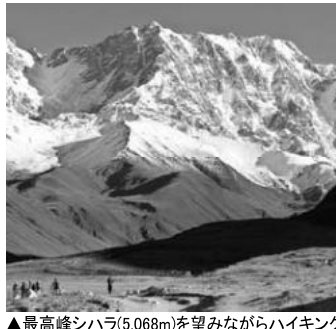
## ◎第七回 今西錦司賞受賞! 登山案内 一等三角点全国ガイド

東西文明の接点グルジアの花咲く仙境

### 花咲くコーカサス山脈 ハイキング 9日間

	出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
残6	7/18(木)～7/26(金)	¥342,000
残1	7/25(木)～8/2(金)	¥342,000

ヨーロッパとアジアの接点に位置するグルジアは、古いキリスト教文化と長寿の国としても有名です。グルジア最高峰のシハラ峰(5,068m)をはじめとするコーカサス山脈を望みながら花咲く高原をハイキングで楽しみま



▲最高峰シハラ(5,068m)を望みながらハイキング

アメリカン・ロッキー最高峰を含む4,000m峰4座に登頂

### ロッキー山脈4,000m峰4座登頂と全米最高所の登山電車 8日間

	出発日～帰着日	旅行代金 (東京発着)
残5	8/1(木)～8/8(木)	¥468,000
残6	8/16(金)～8/23(金)	¥456,000
残4	9/1(日)～9/8(日)	¥398,000

※大阪/東京間国内線手配承ります。

ロッキー山脈最高峰エルバート山(4,398m)を含む3座の頂を目指す登山と、登山電車で登頂する1座の合計4座の4,000m峰を滞在型で楽しめます。



▲雄大なエルバート山(4,398m)を登る



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

大阪 06-6444-3033  
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 (TCF肥後橋ビル2階)

#### 〈編集後記〉

☆支部報151号をご覧いただき、どのように感じられましたでしょうか? 今回より判型をA4判に大型化させました。この変更の主たる理由は、縦書きから横書きにして編集作業を簡素化することにあります。☆この機会に題字欄も変更しました。書は村田かおり会員によるもの、背景の写真は中島隆会員の撮影された「台高・水無山から」です。作品のご提供ありがとうございました。☆支部報は行事報告を中心に掲載していますが、個人山行の報告や紀行文の寄稿も歓迎いたします。800文字程度の分量でお送りください。☆次号の原稿締切は7月末日です。掲載ご希望の方はお早めにご提出ください。(N)

発行日 2013(平成25)年6月10日  
発行所 〒537-0014 大阪市東成区大今里西2-5-12 大阪セルロイド会館205号  
公益社団法人 日本山岳会関西支部  
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp  
郵便振替口座 00930-6-55950  
発行者 重廣恒夫  
編集 加藤芳樹 野口恒雄 水谷 透  
制作 株式会社 双陽社  
大阪市北区堂島2-2-28